

## 平成28年度第2回南砺市総合教育会議 議事録

- 1 日時 平成28年12月19日(月)午後1時～午後2時45分
- 2 場所 南砺市役所井波庁舎3階多目的ホール
- 3 出席者
- |     |          |       |             |       |
|-----|----------|-------|-------------|-------|
| 構成員 | 南砺市長     | 田中 幹夫 | 教育長         | 高田 勇  |
|     | 教育長職務代理者 | 河合 正登 | 教育委員        | 岩井 透  |
|     | 教育委員     | 碓井 好彦 | 教育委員        | 江川由貴子 |
| 事務局 | 教育部長     | 豊川 寛  | 教育部次長教育総務課長 | 酒井 啓行 |
|     | 地方創生推進課長 | 柴 雅人  | 生涯学習スポーツ課長  | 工藤美紀子 |
|     | こども課長    | 武田 秀隆 | 文化・世界遺産課長   | 此尾 治和 |
|     | 教育総務課副主幹 | 村田 朋一 | 教育総務課主事     | 山崎香保里 |
- 4 傍聴者 報道2社

### 5 会議の概要

#### 協議事項

- (1) 南砺市教育振興基本計画の改定に伴う南砺市教育大綱の変更について
  - ・ 教育振興基本計画のこども課所管分の基本理念、基本目標、及び、取組みの基本的方向を加えることで南砺市教育大綱とすることの可否を諮ったところ全員異議なく承認した。
- (2) 第3次子ども読書活動推進計画について
  - ・ 子ども読書活動推進計画(第3次)の概要について説明した。第2次の推進計画期間において「小学生、中学生、高校生と学校段階が進むにつれて読書量が減少傾向にある」などの課題に対し、基本方針や推進のための方策について協議した。
- (3) スポーツ推進計画 後期計画改定版について
  - ・ 現行計画で、なんと元気っ子教室の回数が25教室から45教室に充実するなどの成果があった。主な改定内容としては、国と県の計画を参考にし、計画の体系を5つの基本施策にした。また、施策達成のための目標とする指標を設定した。
- (4) 子どもの貧困支援計画について
  - ・ 9月に実施した小学校5年生、中学校2年生、ひとり親家庭の保護者、及び、子どもに関わる支援者に行ったアンケート結果を報告した。今後分析結果に基づき、計画案を作ることなど協議した。
- (5) 「城端神明宮祭の曳山行事」ユネスコ無形文化遺産登録について
  - ・ 12月1日に「城端神明宮祭の曳山行事」が国指定重要無形民俗文化財「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産に登録された。平成29年5月4日～5日の城端曳山祭に合わせて、全国山・鉾・屋台保存連合会総会を開催する。

## 意見交換（学校教育におけるICTを活用した実証事業）

### ○委員

- ・ タブレットの活用場面と、従来の学習方法の使い分けを考えなければならない。  
音質や音声は良いが、コマ送りのような動画の改善も必要だ。また、機器操作の軽減も考えなければならない。

### ○委員

- ・ ICT機器を使った遠隔協働学習により、子どもたちの考えや学びが深まるなどのメリットがある。今後、遠隔協働学習を進めるためには、教員のICT機器を活用する力量などが大切だと思うので、指導や研修を充実させてほしい。

### ○委員

- ・ 離れた子どもたちが、1つの学校、教室にいるような授業ができ、多様な考えに触れて学習を深めるなど、子どもたちにとって大きな学びの契機になる。実証事業をしていない学校にも広げてほしい。

### ○委員

- ・ 少人数学級同士の授業で、他校の児童生徒の意見を聴くことは、研究テーマの「新たな視点に気づき、考えを深め合うためのICTを活用した遠隔協働学習」に有効だと感じた。

### ○教育長

- ・ ICTの有効活用は、この実証事業がスタートである。中間発表会後に学校長や委員の皆さまにいただいた意見をもとに、関係者との話し合いをさらに進め良いものにしていきたい。この2年間のICTの活用により、子どもたちの考えの幅が広がり、深まりが感じられる。

### ○市長

- ・ 授業を行っている場所に行かなくても、様々なことが学べるようになってきているが、現場の反応や雰囲気を知ることが大切ではないか。また、ICT機器により、授業だけでなく給食の時間を共有するなど、普段の交流に使用できないかとも考えている。タブレットなどの台数の都合もあるが、小規模校から広げていけないか。